

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670200577
法人名	有限会社 あおい介護福祉会
事業所名	グループホーム あおいの家
訪問調査日	平成 21 年 6 月 26 日
評価確定日	平成 21 年 7 月 31 日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

〔取り組みの事実〕

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

〔取り組みを期待したい項目〕

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

〔取り組みを期待したい内容〕

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 7月8日

【評価実施概要】

事業所番号	4670200577
法人名	有限会社 あおい介護福祉会
事業所名	グループホーム あおいの家
所在地	鹿児島県薩摩川内市隈之城1248-1 (電話) 0996-20-3221

評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会		
所在地	鹿児島市城山一丁目16番7号		
訪問調査日	平成21年6月26日	評価確定日	平成21年7月31日

【情報提供票より】平成21年5月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 7 月 15 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 5 人, 非常勤 3 人, 常勤換算	6.1 人

(2) 建物概要

建物構造	木造モルタル 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,000 円	その他の経費(月額)	3,000 (光熱費) 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	300 円	昼食 350 円
	夕食	300 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(5月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名		
要介護3	3 名	要介護4	名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 86 歳	最低	72 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 興隆会有村医院 ・ ぎんや歯科医院
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、JR鹿児島本線隈之城駅より徒歩15分の所にあり、近くを国道3号線が走り、小学校や公園、田畑も広がる住宅地にある。隣には運営者が経営する隈之城温泉があり、地域の方々の癒しの場となっている。「あおいの家」は、もう一度青春のように輝いて暮らしてほしいという想いで身内の介護を経験した運営者が付けている。職員は理念をケアの中心に、家族のように接し穏やかな利用者の生活を支援しており、家族から、利用者の今までにない笑顔が見れたと喜びと感謝の言葉に充実感と確信を得ている。利用者との会話と笑顔にゆったりとした時の流れが感じられるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価での改善点が2項目とアドバイスが3項目あり、運営推進会議や職員会議でも報告されている。改善に向けた取り組みが行われた項目もあるが、市町村との連携では事業所からの働きかけ、職員を育てる取り組みでは、職員の事業所内での研修の年間計画を作成し計画的に教育を行っていくなど、継続中の項目もある。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>運営者は、評価を通して利用者のサービス向上に繋がりたいと考えており、ケアの項目は職員で意見を出し合い管理者がまとめている。プライバシーの確保で、馴れ合いにならないように言葉遣いなど注意が必要という意見が上がり、ケアを振り返る機会となっている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>会議は概ね2ヶ月に1回開催されている。地域代表(自治会長、民生委員、婦人部)、家族代表などが参加している。昨年度は市担当者の参加回数が低く留まっている。今後は事業所からの働きかけに期待したい。会議内容は、事業所の利用者状況、活動報告後に地域交流のあり方を年間テーマに掲げ意見交換を行っている。地域代表から地域の行事の情報を得て、地域サロンに利用者を参加させるなどに役立っている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>苦情対応の第三者委員を地域の民生委員にお願いしている。敬老会の行事に合わせ家族に参加してもらい意見を頂く機会を作っている。今までに苦情などは上がっておらず、家族から利用者の笑顔が見られるようになったという感謝の言葉に、運営者や職員は感激している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入し清掃活動などに参加している。地域のサロンや校区のコミュニティ文化祭に参加したり、芋掘りに参加し地域の方と一緒に食べたり、地域のボランティアに來所してもらい踊り、手品などをしてもらっている。近所の方から野菜を頂いたり、温泉に來た方が寄ってくれたり地域との繋がりも増えてきている。</p>

2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	あおいの家の理念の中に、「ゆったりとした環境の中で」という文言には、地域、家族、職員みんなで生活を支えるという意味が込められており、運営者、職員は地域との繋がりの重要性を認識し開設当初から独自の理念を作っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事務所内やホールに理念を掲示いつでも確認できるように配慮している。職員は、理念のように利用者が笑顔で生活できるように、自分の親のように接すると共に健康や環境整備にも気を配っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し地域の清掃活動に参加したり、ふれあいサロンや校区のコミュニティー文化祭、地域の方との芋掘りなどに参加し交流に努めている。また、温泉に来られた方が寄って下さったり、近所から野菜を頂くなど繋がりが深まっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を通してサービスの向上に繋がりたいと考えており、職員には主にケアについての項目で意見を出してもらい管理者がまとめている。職員の中から、馴れ合いにならないように言葉遣いに注意が必要という意見が上がり、ケアの振り返りとなっている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は概ね2ヶ月に1回開催されているが、市職員の参加が昨年は低く留まっている。事業所の状況報告後、地域交流のあり方を年間テーマとしているので意見交換を行い、地域行事などの情報を得て参加している。また、参加者に認知症の理解を深めてもらえるように資料を提供している。	○	運営推進会議での意見をサービスに繋げていくためには、介護保険担当職員の参加が必要である。事業所から、行政に対して積極的に参加要請を働きかけていかれることを期待します。

鹿児島県 グループホーム あおいの家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	薩摩川内市主催のサービス提供事業者連絡会には必ず参加し連携を図っている。又、自治会を通し広報誌で行事等の情報も得られている。これからは、よりサービス向上のため事業所から介護保険担当職員への働きかけを予定している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	事業所便りは作成していないが、毎月の請求書と一緒に金銭出納帳のコピーや時にはスナップ写真、利用者の健康状態を知らせる経過記録などをコピーして家族に送付している。面会に来られる家族には、職員の異動についても報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会はないが、運営推進会議や敬老会などに参加してもらった後に、家族の意見を頂く機会を持っている。家族からは、利用者の笑顔が見れてうれしいなどの感謝の言葉が多く、特に苦情については上がっていない。苦情受付の第三者委員を民生委員にお願いしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	年間を通じての離職は少なく、新しい職員が入職した場合には、利用者で紹介し混乱しないように引継ぎ面でも配慮している。職員の勤務内容は、本人の希望をできるだけ聞き入れ、人間関係も円滑にいくように努め、離職がないように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	出水、川薩地区GH連絡協議会や包括支援センター主催の勉強会、グループワークや事例検討会などに参加している。毎月1回行われる職員会議では、外部研修の報告を兼ねた勉強会も行われている。	○	職員の立場や習熟度に応じた研修機会を確保するため、職員と話し合いながら研修の年間計画を立て、職員を育てる取り組みが行われることを期待します。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区GH連絡協議会では、管理者同士の交流は行われているが、職員の交流までは至っていない。市の方でも、介護保険サービス事業所の集会有り、グループホーム同士での交流の場も設けられ参加する機会があったが実現していない。	○	同業者との交流を行うことは、事業所内で行き詰っている仕事の悩みの解消につながり、良いアイデアに出会える機会でもあるため、事業所や地域全体のサービスの向上に繋がることと期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	自宅から入所される場合には、本人、家族と一緒に見学に来てもらい、病院からの場合には家族が見学している。入所してから馴染むための工夫は、家族にきてもらう場合と家族に会わない方が良い場合、家族に電話したり、話し相手になり寄り添うなど、それぞれの立場で違うため個別に対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の人生観や良い思い出を引き出すような会話に努め、昔行っていた季節毎の行事料理を聞いたり、季節の食材の話聞きながら一緒に下ごしらえをしたり、農業していた方が多いので農作業の様子を聞くなどの場面作りを行いながら、今はここにいて安心だと思ってもらえるように努力している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所前の生活歴や健康状態と共に、本人や家族の意向をアセスメントしている。家族はここで暮らさせてほしいという思いで入所している。入所後は3ヶ月ごとにアセスメントをしている他、日頃の係りの中で利用者の思いを把握しケアに反映できるように心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画書を作成するにあたり、利用者に必要な関係者が揃って話し合う機会はないが、本人、家族の意向をふまえて職員が意見を出し合い、主治医の記録も参考にしながら作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のミーティングで利用者の状態について話し合っている。3ヶ月に1回の見直しも行っているが、期間前に見直しが必要な変化が生じた時には、現状に即した介護計画書を作成し、家族の同意も得ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療機関と連携し、必要な利用者には月に2回、往診をしてもらっている。家族からの要望があれば受診に付き添う事もある。特別な支援として、墓参り、知人宅への訪問、特養への面会などの外出支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医を継続している方もいるが、本人、家族が納得の上で、協力病院に変更された方もいる。長期通院や大病院への受診については、家族にお願いしている。職員が定期受診の介助を行った場合、薬の変更や病状の変化があった場合には、家族に連絡している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に伴う対応については、重要事項説明書に明記した承を得ている。今の段階では、ホームで最後をと言う思いの家族はいるが、主治医を含めて話し合うことになっている。事業所としては、医療面での対応ができないので最後は病院へと考えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員はプライバシーを損ねるような声かけには注意をはらっているが、馴れ合いの言葉遣いになっていないかと、自己評価を通して見直している。気になった言葉については、その都度管理者が注意をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活リズムを作るために基本的な一日のスケジュールはあるが、起床時間がゆっくりな方、夜、テレビを見てから就寝される方、買い物、喫煙される男性には職員がたばことライターを管理し、晩酌にも適量を提供するなど個々に応じて柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の野菜、つわ、えんどう、竹の子などの下ごしらえを手伝ってもらい、利用者の好みを聞いた家庭的な料理を提供しているため、ほとんどの方が完食している。食事中は、テレビをつけずゆったりと食事できるように配慮している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週3回午前中としているが、利用者の状態に応じて、シャワー浴をするなど柔軟に対応している。入浴は好きな方が多いが、膝が痛いから入らないと拒否される方には、声かけを工夫している。隣接する温泉に週1回程度入浴することを楽しみにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	手作りカレンダーに記しをつけたり、新聞紙やチラシでゴミ箱を作ったり、ゴミ出し、洗濯物たたみなど、できるところから役割をもってもらい張り合いのある生活が出来るように支援している。トランプや歌を歌ったり、行事の作品作り、予定を立てず公園や花見に行くミニドライブなどで楽しみ、気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの裏手にある公園には、朝涼しいうちに出かけ季節を感じてもらえるように支援している。ホームの庭も広く、お花が植えられているが、野菜も植える計画しており、いつでも戸外に出て楽しめるように配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関に鍵はかけずに見守りをおこなっているが、どうしても人手不足の場合は、危険予防のため鍵をかける時もある。男性利用者が、名札をつけて一人で散歩に出かけるが、近隣住民の協力もとりつけている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導の下に1回、職員の自主訓練が1回と年2回の通報、避難訓練が行われている。職員は、夜間に利用者がどの音に一番反応するかを検証し、タンバリンを棒で叩く音に反応が良かったので事務室に準備している。自治会に防災担当者があるので、協力をお願いをするところである。	○	自治会の防災担当者との協力を実現し、近隣住民へ訓練参加の呼びかけを行い、万一の時に協力が得られるように働きかけを行われることを希望します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量をチェックし記録している。水分は1日、1300ccを目安にして、毎食の他10時15時にも確認している。献立は市が行っている高齢者宅配弁当のメニューを参考にし、年1回は栄養士にバランスを見てもらっている。形態もおかゆや食べやすい大きさにするなど対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	運営者は、病院風にならないように心配りし木造作りをしている。広くゆったりとした廊下、ホールに食堂、ソファコーナーにテレビがある。事務所も広く3帖の畳コーナーもある。ホールの窓も大きく心地よい風が通る。壁には利用者の折り紙の作品が展示され、花が活けられ季節が感じられる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベット、タンスの備え付けもあるが、本人が使い慣れた物や大切にしている物、ベット、タンス、時計、テレビ、テーブル、椅子、写真、仏壇などを持ち込んでいる。季節でベットの位置を移動するなど、暮らしやすくその人らしい居室となっている。		